

1. 授業のねらい・概要

日々の生活の中で使われている貨幣（マネー）。マネーはどうして必要なのか、またマネーが私たちの生活の中でどのような位置をしめるのか、この素朴な疑問からはじめて、銀行などの金融システムの役割、貨幣の供給と需要、それらと中央銀行の役割の意味を理解していく。金融論の基礎から日本や世界経済の現実を理解するための必要最小限の知識を得ることをこの講義が目的にしている。ただし予備的な知識はいらない。必要な知識はその都度講義の中で丁寧に解説する方針である。できるだけ日常で話題になる経済的な出来事との関係を意識して講義をすすめていきたい。就職や将来の社会人生活のための必要不可欠な金融の知識の提供が本講義の最終的な目的となる。

2. 授業の進め方

指定した教科書などを参考に内容を時事的テーマもからめてわかりやすく説明していく。初心者でも予備知識なく金融の仕組みについて理解が深まるように講義は進行していく予定。

3. 授業計画

1. 貨幣と金融	9. 非対称情報と金融市場
2. 貨幣と仮想通貨	10. リスク市場の不完備性と非対称情報
3. 貨幣供給と銀行システム	11. 金融仲介と銀行システムの安定性
4. 貨幣の保有動機と需要	12. グローバリゼーションと金融
5. 金融市場と資産価格	13. グローバリゼーションと金融（続き）
6. 総支出・投資とファイナンス	14. ジョルディ・ガリの経済学への招待
7. 失業・インフレーションと金融政策	15. ジョルディ・ガリの経済学への招待（続き）
8. 市場の失敗と貨幣経済	

4. 到達目標

金融論の理論と制度、歴史の基本項目について、一通りの理解と習得ができていること。実際の経済を見る目の育成。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

6. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組む姿勢を重視する。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価していく。

7. テキスト・参考文献

講義は以下のテキストを利用して行う。

戴下史郎『金融論』（ミネルヴァ書房）

ジョルディ・ガリ『金融政策、インフレーション、景気循環』（仮題、勁草書房近刊）

8. 受講上の留意事項

特になし。